

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391100021		
法人名	スクー株式会社		
事業所名	スマートホーム・パティオ		
所在地	〒026-0052 釜石市小佐野町2-3-39		
自己評価作成日	令和5年12月4日	評価結果市町村受理日	令和6年2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1日の生活の中で基準となるに時間(食事・入浴・起床・就寝)は決まっているが、個人の希望や入所前の生活習慣に合わせて変更したり、できる限りもともとのご自身の生活に近い施設生活を送れるように支援しています。新型コロナウイルス感染症のため禁止にしていた面会・外出・外泊もコロナ禍以前同様に戻し、ご家族様が直接ご利用者様の顔を見て安心していただけるような環境作りを行っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、釜石中央インターチェンジの近くにあり、釜石地区合同庁舎や図書館、スーパー等の生活関連施設の多い住宅地にある。法人は、タクシー事業と介護関連事業を運営し、車で数分の場所には有料老人ホームとグループホームやデイサービスがある。事業所は2階建ての建物で、1階は以前小規模多機能ホームとして稼働していたが現在は廃業し、代わりにグループホームとして稼働できるように準備されている。建物自体は空間が広く、ゆったりとした印象である。各階には広いウッドデッキがあり、日光浴を楽しんだり、プランターの野菜の水遣りをしたりと、利用者が自由に楽しめる場となっている。1階部分は家族等との面会に有効活用されている。7名ほどの家族が毎月、面会に訪れ、中には毎週の方もおり、家族との繋がりは強い。職員は利用者を中心とした介護を目指し、利用者を理解し、利用者のペースに寄り添った介護に努めている。今年度は理念の実現に向け、新たに重点とする目標を3つ作成し、利用者個々に対する職員の理解が深まってきている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年12月14日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新しく理念を作る予定でしたが、スタッフ会議にてもともとあった理念はそのまま残し、その理念を達成するために意識する項目を3つ付け加えた。その理念はホールに提示し共有している。	開所以来の理念の見直しを協議したが、改正を行わずに、特に重点的に取り組むべき3項目(①言葉遣い、②利用者のペース、③尊厳の保持)を掲げ、それを意識しながら日々の介護に携っている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ5類にはなったが、地域の流行はまだ落ち着かず安心して活動できないため、小学校・保育園と交流がまだできていない。	小佐野町内会に加入している。コロナ禍前は地元の大正琴や読み聞かせのボランティアの訪問を受けていたが、現在は途絶えている。近くには保育園と小学校があり、以前の関りや新たなつながりを持てるよう、管理者はまずは情報収集から始めたいと考えている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を通じて、認知症介護支援の実際を発信し、理解の一助となっているので、会議を開催を目指している。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議等を通じて、認知症介護支援の実際を発信し、理解の一助となっているので、会議を開催を目指している。	運営推進会議は書面開催が続いている。資料は直接届けたり、郵送しているが、委員から意見を寄せられることは少ない。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当課へのほぼ毎週の事務連絡から協力関係が継続され、また近所の生活応援センターなる支所的機関とは、地域の高齢者ケア等において連携が図られている。	書類を届けたり受け取るため、市役所には毎週1回は出向き、メールで届いた書類等の分からない部分を尋ねるなど、顔が見える関係性ができている。市主催の介護事業者の集まりでは、情報交換に併せ運営基準の改正等についての説明を受けている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束委員会を開催し見直しを行っている。今後は、外部の研修にも積極的に参加したい。	3ヵ月毎に管理者を含む3名で構成する委員会を開催している。毎月の職員全体会議に引続き、拘束廃止のための行動について管理者が説明し、スピーチロックや言葉遣いについて話し合うことにより、職員の理解が深まってきている。

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : スマートホーム・パティオ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の区分、定義や事例を学び、見過ごすことないように留意しており、職員研修でも毎年取り組むこととしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者の研修が今後必要。個々の必要性はケアマネージャーと相談・検討している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問点等は、その都度質問を取り説明している。契約時に気付かなかった事もいつでも電話にて対応説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の訪問時や電話があった際に意見・要望を承り、申し送り等で共有している。	家族の多くが週に1回、あるいは月に1回の訪問がある。面会に先立って必要な物を問い合わせる持参する家族もいる。訪問時に管理者が普段の様子を伝え、家族からの意見等を伺っている。事業所運営に関する意見はなく、穏やかに過ごしてほしい、お酒が好きなので飲ませてほしいなどの声がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者も参加する、日々の申し送りやミーティング、毎月のスタッフ研修会等にて職員は率直な意見・提案を述べる機会があり、反映されている。	日々の業務の流れは朝のミーティングで相談し弾力的に対応している。洗濯機等備品の故障については、本社と相談して対応している。法人の常務と管理者で行う個人面談では、スタッフ増員の要望がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格に応じた手当の支給、勤続年数に応じた昇給等就業規則や給与規定に沿った労務管理に努め、個々の勤務状況の把握や希望休日の受付等環境・条件の整備に努めている。		

事業所名 : スマートホーム・パティオ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	まだコロナ流行中のため、外部研修への参加はほとんどないが、ウェブ研修を利用し個々のスキルアップへ努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に行っているスタッフ会議内でケアマネジャーより他事業所の情報や取り組みを聞き、日々の仕事へ反映させている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困りごと、不安が見られたらマンツーマンで話を聞ける時間を作り、対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	常に相談等受け付けている。来所が可能であれば予定を組み対応。電話でも相談を受け付けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入後も前任担当のケアマネや入居前の利用サービス事業所等と情報交換に努め、現行サービスの是非やニーズの検討を繰り返している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の会話から本人が何を考えているか、何を悩んでいるかを読み取り必要に応じて、改めてゆっくりと相談に乗っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会制限を解除し、ご家族や知人の面会機会が多くなってきている。		

事業所名 : スマートホーム・パティオ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の面会者も歓迎しているが、現在外出がなかなかできないため、好きなものを買ってきてもらったりして関係が途切れないようにしている。	コロナ禍前には近所の方や幼馴染の方の訪問もあったが、現在は家族等だけとなっている。2カ月毎に訪問理美容が来所し、新しい馴染みの関係となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	迷惑行為が多い利用者も分け隔てなく、一緒に生活している。トラブルが起きそうときは、スタッフが間に入り対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族からの相談を受けることは可能で、必要であれば現ケアマネージャーや施設と情報提供している。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフ・利用者が一対一になる場面での会話を大事に何か変化や希望があれば申し送りやケース記録で共有する。	おやつを食べる時間や1対1になれる夜間に、職員が隣に座り、利用者との会話を心がけ、思い等を聞いている。コミュニケーションがうまく取れない利用者については、日常の会話や表情から思いを汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前情報もとに管理者が実態調査を行い、書面で他スタッフへ共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察と記録から本人の状態把握に努め、必要に応じてスタッフ会議で検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の全体カンファレンスや日常のケア、家族との連絡・相談及び担当者会議やモニタリングを基に介護計画を作成している。また利用者の状態に合わせて職員の勤務時間も臨機にずらして対応している。	毎月のカンファレンス、全体会議やミーティングで日々の様子を確認し、介護支援専門員が、その様子をモニタリングとしてまとめ、ケアプランの原案を作成している。原案に対する家族の意見等を確認したうえで、次期の介護計画としている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : スマートホーム・パティオ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の観察と記録から本人の状態把握に努め、必要に応じてスタッフ会議で検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況の相談を受けたうえで、できる限り希望に答えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため、地域の関係性がほとんどなくなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	サービス導入以前からのかかりつけ医とのつながりをそのまま尊重し、またかかりつけ以外の医療機関についても本人希望や症状に合わせて家族と調整や連絡を取りながら受診適っている。	利用者は、入居前からのかかりつけ医を受診している。在宅時から訪問診療を利用していた1人も、引き続き訪問診療を利用している。通院介助は1人を除き、事業所の看護師が行っている。家族介助の1人は、付き添いの家族を通じて日常の様子を医師に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師も介護職と共に日々の利用者ケアに当たって情報共有し、通院介助も介して主治医、薬局含めた各関係医療機関とも連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関がコロナ対応中で、直接会い相談することができない為、書面や電話での情報交換を行っている。		

事業所名 : スマートホーム・パティオ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	新規入所時や第一回目の担当者会議で重度化した際の方針を伺い、将来重度化・終末期を迎えた際に家族・関係者で話し合い支援していく。	入居時に重度化や終末期に向けた事業所の方針を説明し了解を得ている。機械浴、やわらか食やムース食の対応も可能であるが、経管栄養や医療的な面が出てき場合には対応が難しいと考えている。その都度本人、家族等と相談していく方向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ研修に取り入れたり、急変時対応マニュアルを作成し対応にあたっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍と職員の人員不足により、計画的に訓練ができていない。	ハザードマップ上は浸水地区ではあるが、2階建てのため2階への避難を想定している。火災想定避難訓練は今年度中の実施を計画している。食料は3日に1度、冷凍の食材が届いている。発電機や毛布、反射ストープを備えている。	消防署立会いで火災想定避難訓練を実施予定であるが、2階居室からの避難になることから、訓練に向け避難経路、方法等を確認しながら、安全に行えるよう万全の準備で臨むことを期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「笑顔と思いやり」の精神で接遇し、認知症状によるその人の世界、言動を理解するように努め、矢庭に否定することをせず、人格の尊重に心掛けている。	入居時に確認した利用者の職歴やこだわり、性格等を基礎に、入居後の情報を加えつつ利用者の理解に努めている。排泄介助時や入浴時には特にプライバシー確保に配慮している。同性介助を希望される方には同性介助としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が希望を話しやすい雰囲気作りに努め、行事等への参加、着衣選び、食べたいメニューや外出先等自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理な強要となることなく、普段と違った体調や気持ちの状況に合わせて、入浴機会や食事の場所・時間、刻み具合等もその人のペースを大切に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服や理美容、化粧品好み、男性であれば髭剃りの仕方等その人らしく出来るよう支援している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : スマートホーム・パティオ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	安全に食事ができるよう個々に合った食事形態が選択できる。 お膳の回収、テーブル拭きをできる方が手伝ってくれている。	ご飯とみそ汁以外は外注のレトルト冷凍食品を利用している。おやつはプリンやゼリーなど手作りされている。利用者は、下膳、トレイの消毒、テーブル拭きを職員とともにしている。敬老会やクリスマスにはケーキが出されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	副食は外部食品メーカーより仕入れている為、栄養バランスは計算されている。水分も本人が飲みたいものを飲めるときに提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力歯科医院の往診あり、義歯等に不都合が生じた際はすぐに対応していただいている。また食後の口腔ケアを習慣化しており、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間の排泄チェック表を基に必要な方へは時間毎のトイレ誘導、また個別の尿意サインを見逃さないようにしてトイレでの排泄支援に努めている。	トイレでの排泄を基本とし、排泄チェック表をもとに誘導している。また利用者の動きを注意深く観察し、トイレで排泄できるように支援している。オムツ使用の方が2人おり、体位交換が必要な場合には、2、3時間置きのオムツ交換に合わせて行っている。近くにあるトイレがわからない方もあり、声掛けを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操・散歩、活動を通して離床・運動機会を多くし、一人ひとりの便秘解消の経験・希望も尊重して食べ物や飲み物も自主的に摂って頂けるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	入浴に消極的な方が多いが、個別に工夫して誘い、また予定した入浴日にとらわれず本人が気の向いた時やチャンスを見逃さず、また排泄汚染時等臨機に入浴対応している。	週に2回、午前中の中の入浴である。入浴を嫌がる傾向の方でも週に1回の入浴ができるよう、対応に変化を持たせている。機械浴対応の浴槽での入浴であり、跨ぎのできない利用者も入浴できている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に眠たいときに寝て、起きたいときに起きる生活を送ってもらっている。夜間不安で眠れないときは、会話をしたりして安心したところで休んでいただいている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : スマートホーム・パティオ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医指示の基で内服管理している。体調の変化等みられた際は主治医へすぐに相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除・洗濯や台所仕事等日常で一人ひとりに合わせた役割を担って頂き、また日頃塗り絵、花や野菜のプランター作り等趣味活動に楽しんで頂いたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人希望に沿えるよう努力している。 外出は通院時に希望があれば買い物もしている。	日常的に事業所近辺を散歩している利用者もいる。またウッドデッキのプランターで野菜づくりをし、水遣りに外に出る方もいる。全員でのドライブはできていないが、少人数で花見のドライブに出かけたりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別の金庫と現金管理表を基に小口を出納管理し、毎月家族報告しているが、財布を持出して自由に買物して来る方、同行して支払い支援する方、好みを聞いて買物代行する方それぞれに応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は家族等相手の意向を踏まえながら本人希望に合わせていつでも通話できるようにしている。手紙やはがきがたまに届くときもあり、読み聞かせ等の援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然で落ち着く雰囲気心を心がけてはいるが、入居者の作った絵等を壁に飾ったり、節句ごと季節感を出す飾り付けをしたり、通い利用者や家族等来訪者が持って来る花をテーブルに生けたりもしている。	広いホールにテーブルや椅子、ソファが配置されており、また小上がりもあり、好きな場所でくつろげる環境である。1階は床暖房となっていて、その温かさが2階スペースに上がってきている。壁には利用者と職員が作った季節の作品が飾られている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : スマートホーム・パティオ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールは、テーブルについて皆とゲーム等するもいいしソファで一人テレビを見るのもよく、また小上がりの畳でおしゃべりや昼寝してもいいような造りになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はのぞき窓もなく遮蔽がない、置いて不都合ないものは持ち込み自由とし、使い慣れた時計や家具を持ち込む方もある。アンテナ線を引いているのでテレビも持ち込める。	居室にはベッドとクローゼット、椅子が備え付けられているが 利用者によっては衣装ケースを持ち込んでいる。位牌をもってきたり、家族写真を飾ったりと、利用者が心地よく過ごせる環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できるだけ普段から階段を使って歩いてもらい、筋力低下や意欲が下がらないように誘導している。		